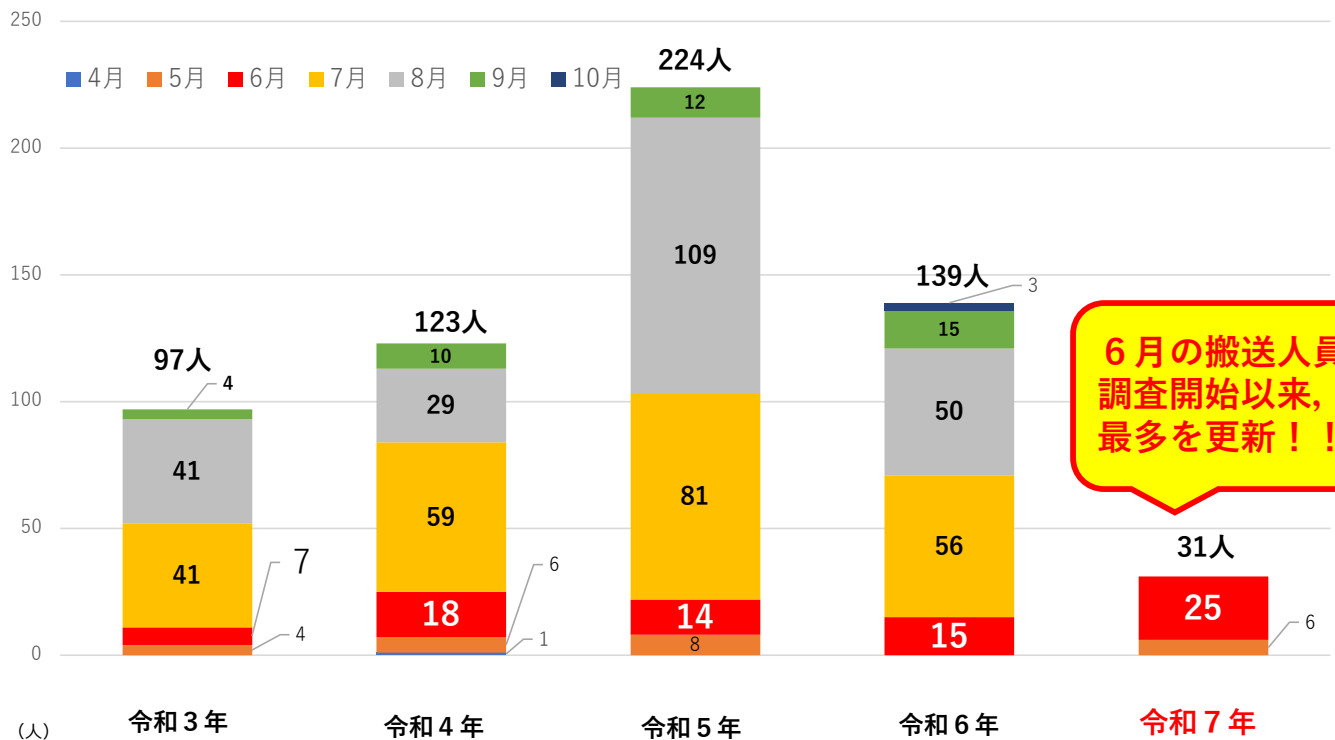


令和7年中 大崎管内における熱中症搬送状況について

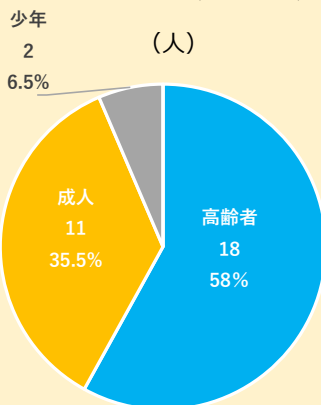
(令和7年4月1日～6月30日)

過去5年 熱中症による救急搬送状況



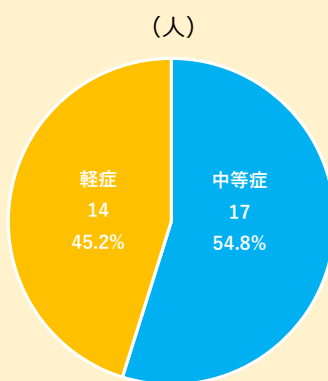
熱中症による救急搬送人員（31名）の内訳

年齢区分別（構成比）



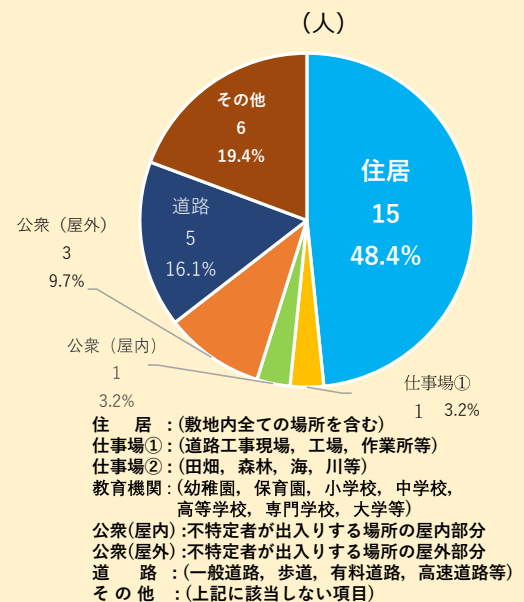
乳幼児：生後28日以上満7歳未満
少年：満7歳以上満18歳未満
成人：満18歳以上満65歳未満
高齢者：満65歳以上

初診時における傷病程度別（構成比）



軽症：入院加療を要しない程度（外来診療）
中等症：重症又は軽症以外の程度（入院加療）
重症：3週間以上の入院加療を必要とする程度
死亡：初診時において死亡が確認されたもの

発生場所別（構成比）



- ・大崎管内の熱中症による救急搬送人員の年齢区分別では、約6割を高齢者が占めており、傷病程度別では、中等症17名（54.8%）、軽症の14名（45.2%）となっています。
- ・また発生場所別では、住居（敷地内すべての場所を含む）が約半数を占めています。

熱中症は



予防が大事

喉が乾いて
いなくても
こまめに



こまめな
水分補給を

熱が
こもりやすく
なっています



マスク熱中症に
注意しよう

できるだけ
日陰で
過ごそう



直射日光を
避けよう



日傘や帽子を
忘れずに



適切な予防をして 熱中症を防ぎましょう!



水分補給と
あわせて
塩分補給も

適度な
塩分補給を



暑さを
我慢せずに
温度管理を



エアコンを
上手に活用

暑い時は
無理せず
休憩を



こまめに
休息をとろう

高齢者や
子供には特に
気配りを



声を
かけ合おう

熱中症とは？

温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

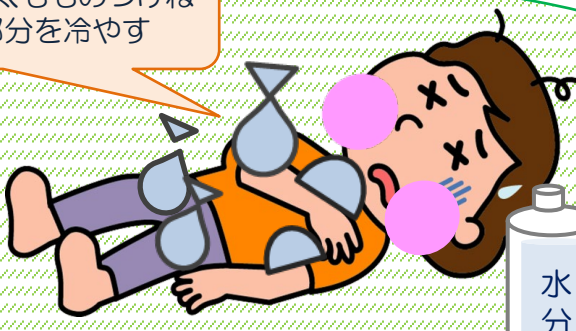
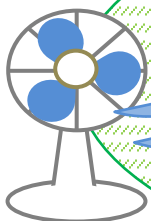
熱中症の分類と対処方法

重症度	症 状	対 処	医療機関への受診
	・めまい ・立ちくらみ ・こむら返り ・手足のしびれ	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・冷やした水分、塩分補給	・症状が改善すれば受診の必要なし
	・頭痛 ・吐き気・吐いた ・体がだるい ・集中力や判断力の低下	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ体を冷やす ・十分な水分と塩分の補給	・口から飲めない場合や、症状の改善が見られない場合は、受診が必要
	・意識障害（受答えや会話がおかしい） ・けいれん ・運動障害（普段通りに歩けないなど） ・体が熱い	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ保冷剤などで冷やす	・急いで救急車を要請

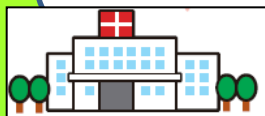
＋ 熱中症の応急手当 ＋

- ＋ 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- ＋ エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす

首の周り・脇の下・太もものつけねなど太い血管の部分冷やす



飲めるようであれば水分をこまめに取りさせる



持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう

熱中症は予防が大切です



熱中症は正しい知識を身につけることで、
適切に予防することが可能です。

熱中症予防行動のポイントとして、
以下の項目に心がけてください。



- 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。また、こまめに換気をしましょう。
- のどが渴いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- 熱中症警戒アラート発令中は外出をできるだけ控え暑さを避けましょう。